

2020.07

Vol.031

公益社団法人 つくば市シルバー人材センター
働きませんか、健康で、たのしく

ぎずな



令和2年度つくば市シルバー人材センター
定時総会
五十嵐つくば市長のご祝辞
新役員紹介
コロナ特集
2年間を振り返って
安全パトロールの結果について
プレゼントのお礼の手紙がきました
〈コラム〉 暦（こよみ）
趣味探訪

〈令和2年度つくば市シルバー人材センター定時総会〉

令和2年度定時総会は、新型コロナウイルス感染予防のため、大勢の会員が一堂に集まるのを避け、書面による議案・議決書による初めての開催となりました。

議事次第に従い、宇都宮理事長の挨拶、つくば市長五十嵐立青さまからのご祝辞が披露されました。続いて、出席者と委任状の数が発表され、総会の成立が確認され、議長に遠藤忠氏が選任されました。

議題に入り、議案第1号、令和元年度収支決算についての報告と監事による監査報告がありました。質疑後、承認されました。続いて議案第2号、理事及び監事の候補者の選任について報告があり、質疑応答後、承認されました。報告事項に入り、報告第1号令和元年度事業報告、第2号令和2年度事業計画、第3号令和2年度収支予算、第4号配分金単価の改正について、担当理事から報告され、また会員からの質問に対する応答を読み上げた後、全ての案件が承認されました。これらの質問と回答は、後日「事務局だより」

にて報告することが決まりました。

議長解任後、安全委員長より「安全標語」の発表があり、「急ぐ心 余裕の無さが 事故を呼ぶ」が最優秀作品として披露されました。会員表彰として80歳以上の会員、および在籍15年以上の会員の表彰が行われ、無事、総会が終了しました。最後に抽選会が行われ、抽選に当たった会員に対し、後日粗品が発送されます。議案書・議決書による総会は、センターとして初めての経験でしたが、皆さんの協力によって令和2年度がスタートできました。

五十嵐つくば市長のご祝辞



日頃から市政全般にわたりご協力をいただいていること心からお礼を申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のために皆様には様々なご協力をいただきました。ありがとうございます。東京都圏との行き来が多いつくば市の特性を考えれば感染爆発を防ぐことができたのはひとえに皆様のご協力の

おかげです。緊急事態宣言が解除され、活動が徐々に再開されていますが、引き続き手洗いや身体的距離の確保、3密の回避等の対策を継続していただき、心身ともに元気な生活を送っていただき地域のためにご活躍をいただければと考えています。

就業を通じて、高齢者の社会参加促進、健康維持、生きがいづくりといった様々な面で貢献していただいているシルバー人材センターの担う役割はますます重要なものになっています。皆様が進んで培った技術や知識を生かし、樹木の剪定や草刈り等から、企業や公共施設等での就労、地域でのボランティア活動までをされている姿は、生きがいを持ち、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちを目指すつくばの大きな力となっています。今後もさらに多くの方に入会していただいて、充実した活動ができますことを期待しています。市としても皆様の活動を支援していくために、全力でサポートをしてきます。

結びに、つくば市シルバー人材センターの益々の発展と会員の皆様のご健康とご活躍を心より御祈念申し上げます。

新役員紹介

新しい理事・監事が総会で承認されました。

【理事】

(新任) 土田 禎太郎 豊 里

(新任) 大塚 誠 豊 里

(新任) 深谷 純一 谷田部

(新任) 武井 義 谷田部

(新任) 薬師寺晴美 桜

(再任) 成島 和子 谷田部

(再任) 尾台 昌治 谷田部

(再任) 里信 隆義 桜

(任期継続中) 磯部 隆秀 荃 崎

(任期継続中) 小杉 晴彦 谷田部

(任期継続中) 真尾 絹子 荃 崎

【監事】

(新任) 山峰 國彦 桜

(再任) 金子 和雄 桜

〈コロナ特集〉

まったく予想もしていなかった〈新型コロナウィルス感染症〉騒ぎにより、茨城県には特別緊急事態宣言が発せられました。これにより不要不急の外出の自粛が求められ、私たちは、これまでの生活に大きな変化を余儀なくされ

ました。仮に宣言が解除されてもコロナ禍が収束したわけではなく、先が見えない長期戦を覚悟しなければならぬかもしれません。このコロナ禍によってセンターへの影響と会員のこれからの生活を考え、センター会員の何人かの方々に、コロナ騒動の期間中に感じたことをお聞きしました。みなさんから多くのご意見をいただきました。整理・編集しましたのでご了承ください。(編集部)

質問事項…4〜5月コロナ自粛騒動が始まってからの生活と仕事について…

(回答者) ①性別 ②年齢 ③入会歴

④就業歴 ⑤シルバーでの活動歴。

Q1 仕事はどうなったか。

Q2 家庭での過ごし方、健康面ではどのような対処法をしているか。

Q3 自身や周囲の社会生活や仕事で気づいた変化や影響。

Q4 センターの対応について。

〈Sさん〉

①女性 ②1 ③6年 ④就業歴あり

⑤総務部会、女性活躍委員会

Q1 期間中も仕事は続いている。

Q2 外出を控え、体調管理に留意。趣味のガーデニング実行。室内外の整理作業。友人とのメール交換。手洗い、マスク着用。ソーシャルディスタンス

に注意。十分な睡眠と規則正しい生活を心がけるが、マスク着用など気を使うことが多くなり、精神的に疲れた。

Q3 健康維持、室内でできる運動も実行しているが、運動不足が心配。人気の少ない時間帯や場所を選んで散歩。精神状態を一定に保てるように心がけて過ごしている。

Q4 会員の現状を把握し、意見を取り上げ、対処を会員に知らせてほしい(例…アンケート)。広報誌の活用。事務局から必要な情報を流してほしい。

その他：広報誌に事務局職員の紹介(担当の仕事の内容、仕事への考え方など)

◆やまびい◆
備え

新型コロナウイルス感染症が、日本経済のみならず、個々の私たちの生活にあたる打撃が極めて大きく、私たちのこれからの生活設計を見直さなければならぬ状況です。シルバーの就業で得られる収入はささやかでも、人によっては貴重な収入源となり得るのです。センターの役員、事務局に対して、とくに就業開拓や、仕事関連の情報収集に力を集中することを願ひ、あわせて会員のみなさんにも、この意識を強く持って協力をお願いいたします。

〈ETさん〉

①男性 ②73歳 ③9年 ④現在就業中 ⑤活動歴多し

Q1 仕事が公共交通関係なので、自粛期間中も仕事は続いた。

Q2 マスク、うがい、手洗いを励行。マスクは冬場から着用している。昔から衛生面には気をつけているので、今回も普段と変わらないペースで過ごしている。

Q3 コロナのせいで、自宅で小さい孫の面倒を見ることになった。けっこう気を使う。

Q4 センターからの連絡はとくになかった。コロナ騒動はワクチンが完成し、普及するまで続くだろう。

〈FYさん〉

①男性 ②76歳 ③12年 ④就業歴あり ⑤理事や部会活動歴あり

Q1 いま就業はしていない。

Q2 ほとんど在宅。仕事はいまはやっていない。好きな庭の手入れ、一日一回一時間ほどの散歩。妻の買い物に付き合う。趣味の絵を描くこと。毎日軽い運動（ジョギングや散歩）をやっている。持病があるので、食事は免疫力を高めるものを妻が用意してくれる。

Q3 人との接触を控えざるをえないので、自身も奥様もストレスがたまがち。

Q4 期間中は、事務局からとくに連絡はなかった。この騒ぎの先がどうなるか、わからない。高齢化会員が多いので、医療関係の情報を集めておくことが必要ではないか。

〈HKさん〉

①男性 ②70歳 ③4年 ④あり（剪定・除草） ⑤理事、剪定・除草部会

Q1 剪定・除草の仕事を続けている。

Q2 ほとんど在宅していた。庭いじりや剪定、除草用の器具の手入れを続けた。センターの資料作りに時間がなかった。体調維持には気をつけた。風邪を引かないように注意し、手洗い、マスク、衣服にも気を配った。十分な睡眠や休息を心がけている。

Q3 自粛要請のおかげで、人も来ないし、家族でやることも少なくなった。結局、自分の命は自分で守るしかない。

Q4 自粛のせいもあるが、事務局から、シルバー関係の情報が少なすぎる。センターが市と連携して協力ができないものかを、考えなければいけないのではないか。例えば、介護施設のまわりの草取りとか。事務局からは、会員たち

で協力できるかもしれない情報、依頼、協力の話が、センターから無かった。

〈ITさん〉

①男性 ②73歳 ③12年 ④あり ⑤地区長、理事

Q1 期間中はシルバーの仕事は続けている（公共性があるので）。

Q2 マスク、手洗い、うがいの励行は欠かさない。とくに消毒には気をつけている。仕事の時以外は、自宅にいることが多く、庭いじりや、畑の共同耕作、竹林の整備など。

Q3 いま社会では、趣味や運動ができず家庭にすることが増えるため、家庭内の問題が多くなっているかもしれない。行政に期待はしたが、みんなも大変ではないか。期間中、事務局や仕事先からとくに連絡はなかった（仕事が続いていて、仕事関係の連絡はきた）。

Q4 姿が見えない相手なので、医療専門家の話に注意している。事務局への要望として、仕事をする会員の思いを、客先のことにも考慮しつつ、事務局が動いてほしいことがある。



〈FJさん〉

①男性 ②73歳 ③2年 ④あり ⑤総務部会

Q1 以前の仕事では8日間あつた就業日数が、3月は1日間になった。4月からは新しい就業先に変わり、それ以降は通常どおり仕事についている。事務局、就業先のいずれからも連絡があつた。

Q2 自粛期間中の生活は、なるべく運動をするように心がけていた。外出を少なくし、マスク、うがい、手洗いななどをこころがけた。

Q3 自粛の影響は、自身だけでなく、専門学校講師をしていた妻が、3月、4月、5月は休みとなった。

Q4 就業先が少なくなると思われるので、就業先の開拓に力を入れてほしい。

〈Nさん〉

①女性 ②1 ③8年 ④あり ⑤理事、女性活躍委員会など

Q1 民間M企業の受付業務で、センターからの派遣者4名と午前と午後の輪番で2年勤務しています。事務局から施設の休館に伴って4月から自宅待機となるとの連絡がありました。

Q2 自粛期間中東京から娘と孫が疎開して同居し、孫との接触は楽しく、退屈することはありませんが、畑の仕事、

家のかたづけと体力的にきつい。

Q3 休業によって収入がなくなり、生活を少なからず切り詰めています。国民年金だけの人は、たとえ2万円であつても経済的に困窮する会員も出るでしょう。娘と孫が増えるだけで食事、水道、電気代が増えている、早く元の生活に戻りたい。

Q4 県シ連から休業会員に対し、たとえ5,000円であつても給付してもらえればうれしい。

〈Sさん〉

①男性 ②72歳 ③3年 ④あり ⑤なし

Q1 市の施設Iに勤務しています。コロナ禍によって施設が休館となり4月から自宅待機となりました。

Q2 マンション暮らし、終日、家に籠り、妻と顔を合わせ、趣味の吹き矢も中断、東京にいる子供達を訪ねることのできないため、ストレスが溜まり、ちよつとしたことで妻と言ひ合ひになつています。

Q3 近くの公園に散歩に出かけるにも気を使い、人の少ない早朝に行き、時間も短くなり、運動不足と間食の増加で体重が4kgも増え、医者から呼び出しがあり、体重を減らすよう強く申し渡されま

した。仕事で出かけることがいかに健康や精神的によく、さらに生活に喜びを与えてくれているかを知りました。

Q4 コロナ禍に対する政府の対応のお粗末さが目につき、自分の身は自分で守るしかないと思つています。休業を余儀なくされた会員に対して、休業補償があつてもいいのではないか、一刻も早く収束し、仕事に復帰し、気兼ねなく、こども達の所に遊びに行ける日が待ち遠しい。

2年間を振り返って

【総務部会長 尾台 昌治】

総務部会、広報委員会を担当して2年、「光陰矢のごとし」を実感しています。総務部会では、懸案となつていた規程の見直しと追加を精力的に行い、規程集3版、4版を発行し、さらに、センターの組織や実態と合わなくなつていた「規程集ダイジェスト版」を刷新しました。リフレッシュ講習会などの講習会すべてを予定どおり開催し、新たに「新入会員のための送り出し研修会」を行いました。

広報委員会では、ホームページ（HP）を作り直して内容を充実させ、

適宜更新を行い、さらにスマホから手短かにセンターの活動が閲覧できるようになりました。広報誌「きずな」も予定どおり刊行して皆さまに届けることができました。

皆さまに満足していただける総務・広報活動ができたかどうかわかりませんが、何とか責任をはたすことができ、部会員、委員、事務局職員のご協力に心から感謝いたします。

【事業部会長 細淵 賢三】

平成30年度定期総会において新役員に選出されてから2年が経過いたしました。

この間、事業部会では会員の皆様の就業機会の拡大や適性就業について鋭意検討を進めてまいりました。収入に關してはここ数年受託事業収入が落ち込んでおり、新たな事業基盤の確立として、ワンストップ営業や空き家・空き地見守りサービスを平成2年度より試行実施しており、今後の顧客様要望や業務内容検証、取組拡大が大変重要です。

安全委員会では会員の安全・健康を最優先に高木作業の中止や安全講習会、安全パトロールの強化等、事故撲滅活動を展開して、昨年度から事故が減少してまいりました。

今後も継続した事業運営が必須であり、現状の課題解決や、新規事業展開には会員の皆様の就業、各種行事への積極的参加が何よりも重要と感じております。

これからますます少子高齢化が進む中で、シルバー人材センターの地域における役割は大変重要であり、会員相互の信頼の「きずな」を大事に引き続きご協力よろしくお願いいたします。

【地区統括部会長 大田 定夫】

地区統括部会は六地区から構成されており、各地区が地区役員を中心に様々な活動をしております。会員の皆様には、地区の活動に参加していただき、感謝しております。私は部会長として2年間、地区役員、会員の皆様に支えられてやってきました。

この2年間を振り返ってみますと、年々各地区の活動が活発になってきたことを感謝しています。地区の活動の実績が認められ、地区活動助成金の増額もできました。それによってさらに地区活動の輪が広がってまいりました。地区役員の方が、年間計画を作成し、実行してくれたおかげで会員の親睦・交流も盛んに開催することができました。ボランティアの一環でありま

すアダプト・ア・パークにおきましては、つくば市より感謝されており、清掃の備品をいただいております。

地区のイベント企画としては、登山・トレッキング、バーベキュー大会、バスツアー、出前教室等を開催してきました。また、センターと連携のもと、会員拡大に向けて地区主催の入会説明会・審査会を実施してきました。

今後も会員の皆様には、地区の活動にご協力、ご理解のほどをよろしくお願いいたします。

安全パトロールの結果について

「きずな」30号でお知らせしましたが、令和元年度は平成30年度に比較して損傷・損害事故が急激に減少し3分の1、5件となりました。センターは、安全委員会を中心に事故の撲滅に向け、安全のための研修や講習会を開くなど啓発に努めました。この一環として抜き打ちで作業現場に赴き、作業が安全にそして適正に行われているかを検査する「安全パトロール」を強化しました。

「安全パトロール」は、安全委員会の委員と事務局職員が一組になって、

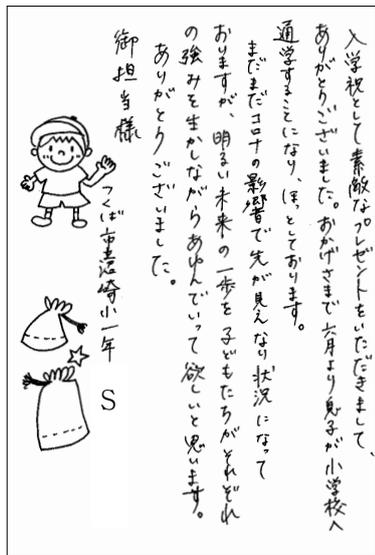
毎月1回、計12回、29か所の現場で実施しました。安全パトロールでは、服装、装備、点検、作業安全への配慮などの点検項目に沿って検査しました。パトロールを実施した作業の内訳は、草刈り・草取りが11か所、剪定作業が10か所、施設の管理業務、清掃などの8か所、事故件数が多い、草刈り、剪定作業が検査対象として多くなりました。

パトロールによる検査の結果、重大・重篤事故の引き金となる三脚の固定不良、機械の整備不良、高木の剪定作業、刈り払い作業時の飛散防止ネットの無使用など大きな作業過失は、いずれの作業現場ともありませんでした。しかし、作業時におけるヘルメットの未着用、飛散防止ネットの使用不備、ホイッスルの無着用、作業チェックリストの無記入、長靴の着用、道路に置いて注意を促すカラーコーンの無使用などの小さな作業欠陥が数か所で指摘されました。小さく、些細なこと慢性化が重大な事故につながります。「安全パトロール」は、一部の現場の検査にすぎません、全ての作業、全ての現場とも『安全が第一』、常に決められた規則を守り、緊張感を持った作業で無事故を目指しましょう。

これから暑い夏、草刈りや剪定作業を炎天下で行うため、十分な水分補給と適切に休憩をとるなど、コロナ、熱中症対策と合わせ、平日頃から体調と健康に注意してこの難関を乗り切りましょう。

プレゼントの お礼の手紙がきました

女性活躍委員会は、毎年、数ヶ所の小学校の新生児に「巾着袋」のプレゼントを行っていきます。新生児の親御さんからそのお礼の手紙をいただきましたので紹介します。



規程集の改定版（4版）が できました

懸案となっていた規程集の見直しによって改定版（4版）ができました。

今後も4版を元に規程が改正されるごとに差し替えを行い、常に最新の規程集が閲覧できるようにいたします。また、規程集ダイジェスト版も更新しましたので合わせて参照をお願いします。



〈コラム〉暦（こよみ）

日本は長い間、中国文明に影響されてきました。暦もそうでした。近代化を急ぐ日本が改暦を決断したのは、明治六年（1873年）。明治新政府は、それまで中国の太陰太陽暦をもとにした旧暦から欧米先進諸国の新暦（西暦）に切り替え、時刻も不定時法から定時法（昼夜を等分する）を導入しました。欧米文明の後塵を拝していたアジア諸国の中で、日本が最初に西暦を導入したのです。改暦は明治新政府の決断でした。変えなかつたのは元号で、世界で唯一日本だけが使っている紀年です。ところで、さっぱりわからない

のが、月の30日と31日の並び方。「二四六九士（ニシムクサムライ）」で覚えましたね。この並び方には規則性がなく、ただ歴史的な偶然によるそうです。生活文化に欠かせない暦は、ときの為政者に左右されることが多く、文明、国、地域、歴史、民族、宗教などがからみあい、なかなか奥の深い話なのです。

趣味探訪

会員の皆さんの趣味を探訪し、習い始めた動機、長く続ける秘訣やその魅力を聞きました。

今回は、ステンドグラスで「電気スタンド」、「飾り窓」を製作して30年、今やプロの領域、桜地区会員の小倉輝子さんを紹介します。

小倉さんは、教会のステンドグラスの窓や装飾に魅せられ、製作したいと習い始めました。写真2のような電気スタンド作品の製作の場合、いろいろな彩色のステンドグラス（厚さ3ミリほどのガラス板）、銅製のテープ（ガラスの切口を覆う）、ガラス切り、ヤスリ、ハンダとハンダこて、接着剤などたくさん材料と工具が必要で

す。そして製作には、写真1のようなスタンド傘の枠型（表面に枠線による図柄）とその図柄と同じ型の台紙を使います。この傘の図柄は、写真の台紙（55パズル）3枚をつなげて作り、全体で165パズルとなります。製作工程は、台紙内の枠線のパズルごとに、図柄の色に合った彩色のステンドグラスからガラス切りでパズルを正確に切り出し、手や工具で厚いガラスを割ります。こうして切り取ったガラスパズルの切断面をヤスリで研磨し、切断面に銅製のテープを巻き付けます（ハンダの溶接に必要）。次に、このガラスパズルの一部に接着剤を付け、傘の枠型の上と並べ、隣同士のパズルをハンダで仮点付けします。ある程度の個数が結合できたら内側の枠型を外し、パズルの外側と内側をハンダで本付けによって接合します。この操作を繰り返し、傘の全面を165個のパズルで覆うと色付きの図柄を持ったステンドグラスの

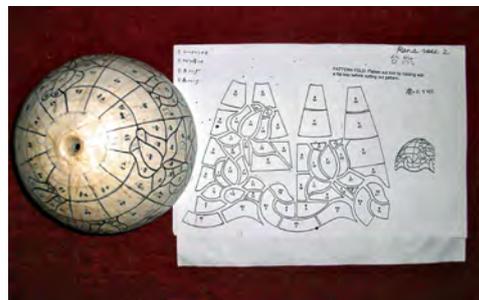


写真1 スタンド傘の枠型と台紙

傘ができます。後は、電気スタンド本体に取り付けるための金具を装着して完成です。

製作の材料や工具、製作工程を聞き、材料費、時間と労力、技術、そして根気と精密性がなると作れないと感じました。特に、平面のステンドグラス片を枠型の球形に沿って貼り、ハンダで接合するのが一番難しく、集中力が求められ、年に2作が限界だそうです。ステンドグラスの魅力は、完成した時の充実感。光を通した時の美しさは、ロマンチックそのものとのこと、ただただ感服です。



写真2 ステンドグラスの電気スタンド

表紙の説明

コロナ菓ごもりのさなかでも、農家の仕事は変わりなく進んでいました。五月初めの水田ではいつもの通りの田植えが始まりました。このままなにごともなく、秋まで無事に育ってほしいものです。